

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成15年度病害虫発生予察情報 特殊報第1号

平成16年 1月16日
岩手県病害虫防除所

ホップうどんこ病(*Sphaerotheca macularis* (Wallr.: Fr.) Lind, s.str. (Braun, 1968))の発生について

1. 発生状況

- (1)平成15年7月中旬、江刺市、遠野市、二戸市、軽米町のホップ栽培圃場で、形成初期～肥大中の穂花に白色粉状のカビが多数形成されているのが観察された。穂花の被害は通常数%で、多い場合は十数%に及ぶ例がみられた。
- (2)穂花上の白色粉状のカビを顕微鏡観察したところ、分生子、分生子柄の形態は *Oidium* 属のものであった。
- (3)富山県立大学短期大学部の協力で分離菌を同定したところ、病原菌の形態的特徴*から、本症状は本県では未確認のホップうどんこ病菌 *Sphaerotheca macularis* (Wallr.: Fr.) Lind, s.str. (Braun, 1968)によるものであることが確認された。
*【菌叢が白色粉状、分生子はフィロシン体を有し、無色、単胞、卵形～楕円形で、大きさ 20.3～29.4×13.6～18.1 μm で鎖生する。Foot-cell は大きさ 42.9～67.8(最大 85.9)×6.8～9.0(最大 13.6) μm。分生子の発芽管は *Pannosa* 型】
- (4)本病は 1936 年に国内での発生が記録されているものの(原 1936)、以後の記載が見当たらず、本県における発生実態も不明であった。

2. 病徴と被害

- (1)若い葉と穂花に発生する。穂花では、がく部付近に白色粉状の病斑が形成される。分生子の形成は苞裏に多い。穂花全体に発病するなど激しい場合は穂花の肥大が阻害され、やがて褐変してミイラ化する(図1)。通常管理圃では葉に発病を見つけることが難しいが、過繁茂した若葉の表裏に病斑が認められる。つるでの発病は認められていない。

3. 病原菌と伝染

- (1)病原菌は子のう菌類に属する糸状菌で、絶対寄生である。ホップの他、カラハナソウなどに寄生する。
- (2)病原菌の伝染環については不明な点が多いが、被害残さに形成された子のう殻で越冬し、翌年これより飛散する子のう胞子が第一次伝染源になると考えられている。
- (3)感染・発病は収穫期まで続くとみられるが、灰色かび病の防除適期である毛花開花期(50%)とその1週間後の穂花初期が重要な感染時期であると考えられる。

4. 防除対策

- (1)毛花開花期(50%)とその1週間後の穂花初期に、灰色かび病防除を目的としたユーパレン水和剤の2回散布で同時防除される。



図1 穂花における病徴

a,b: 初期の穂花表面に形成された分生子

c: 肥大が阻害された穂花 / d: ミイラ化した穂花

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】

本 所 TEL 0197(68)4427

FAX (68)4316

県北駐在 TEL 0195(47)1078

FAX (49)3015

この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/>